

## contents

[コラム]

情報教育と情報技術教育  
…米田英一

[解説]

産業技術大学院大学・  
情報アーキテクチャ専攻のPBL  
…酒森 潔

[解説]

オープンソースを活用した専門  
職大学院大学におけるオブジェ  
クト指向技術教育の紹介  
…江谷典子

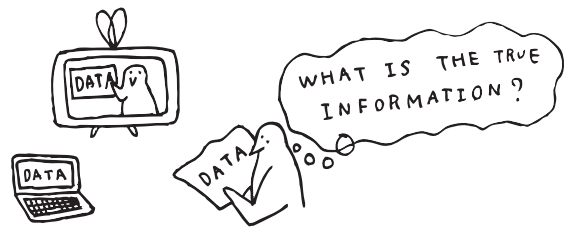
[特別コラム]

お大師様を訪ねて (4)  
君のひとみは 10000 ボルト  
…湖東俊彦



## Column

### 情報教育と情報技術教育



情報教育と情報技術教育を比べたとき、一般の市民にとって前者の方が重要であることはいうまでもない。さて、本誌の2011年4・5月合併号に掲載された箕さんの「ご存じでしたか？」に「8秒間に生まれる34人の子どものうち、5人はインド人、4人は中国人、アメリカ人は1人」とある。これを見て、右翼系の新聞などは中国の脅威について金切り声を挙げるであろうが、健全な良識を持った市民であれば世界の食糧問題に思いを致すに違いない。高校で「情報」について学ぶ生徒も、こういう記事を見たときには、世界の農産物の生産量を自分なりに調査し、バイオ燃料などという代物のいかがわしさを納得するようになってほしいものである。「ご存じでしたか？」には「英単語の数はシェークスピア時代の5倍になっている」ともある。素直な高校生なら、増えた単語にはどのようなものがあるのか；Shakespeare時代と現在とでは品詞の比率はどのように変化したのか；といった疑問を抱くであろうが、私のような臍曲がりには「単語数が増えた結果、Shakespeareを凌駕する英米文学者が生まれたのか、Joyceがそうだということか？」といった皮肉な見方をすることになる。同じデータを見ても、そこから読み取る「真の情報」は人によって実にさまざまである。

ところで、生データから「真の情報」を読みとるためには、幅広い知識と鋭い洞察力と若干の四則演算能力が必要である。そういう意味では、情報担当の教授・教員にはほかの学科の教授・教員以上に豊かな教養が要求されるが、現実はどうであろうか。「真の情報」を得るためには、現在の日本社会の情報環境も大問題である。中堅企業の不祥事に対しては居丈高に罵倒する癖に、超大企業の悪事に対しては一言の苦言を呈することもできないのが現代の日本の大部分の新聞やテレビの実態である。こういう環境の中で「真の情報」を得ることの難しさを高校生に理解させることが大切である。

最後に情報技術教育について一言だけ書いておく。パソコンのソフトウェアの品質と性能の悪さはほとんどの利用者がイヤというほど体験しているはずである。こういう中で情報システムの品質や性能について講義することは非常に難しい上に、学生も真面目には聴こうとしないであろう。いっそのこと、大学の情報工学科では、思い切って、パソコンのソフトウェアの品質と性能の悪さの本質的な原因について、想像力と洞察を駆使して分析しながら教えるという案はどうであろうか。

米田英一